

様 式 F - 7 - 1

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成 28 年度）

1. 機関番号

1	8	0	0	1
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 琉球大学
3. 研究種目名 若手研究(B) 4. 補助事業期間 平成 28 年度～平成 29 年度
5. 課題番号

1	6	K	2	1	0	0	5
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 過去の生物多様性復元に向けて：本草学資料に残された生物記録の分類学的再検討
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
6 0 7 6 1 8 4 8	ハヤシ リョウタ 林 亮太	農学部	協力研究員

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

平成27年度は、鹿児島県屋久島におけるアカウミガメに付着生物の採集調査と 静嘉堂文庫美術館における古典籍資料調査を行い、それぞれにおいて進展があった。

では、高木春山による「本草図説」中に残された『赤亀』の図に描かれているフジツボ類、カメフジツボの付着パターンを実際に観察・計測し、個体間距離などの基本的な記録を蓄積することができた。

では、木村黙老による魚譜「鱗鏡」を調査し、アオウミガメの図を得た。「本草図説」中に残された『異亀』の図がアオウミガメ、クロウミガメのどちらを描いたものが同定を進める上で、高木以外の博物学者によるウミガメ博物画との比較は非常に重要である。現在は新たに得た資料をもとに博物画の記載を進めている。

今後はさらに未調査の古典籍資料の収集と野外調査による標本採集を進め、年度内の論文投稿を目指す。

10. キーワード

(1) 本草学

(2) 動物分類学

(3) 生態学

(4) 生物多様性

(5)

(6)

(7)

(8)

11. 現在までの進捗状況

(区分) (2) おおむね順調に進展している。

(理由)

予定通りの調査を遂行することができている。

12. 今後の研究の推進方策 等

(今後の推進方策)

さらなる未調査の古典籍資料の収集と、野外調査による標本採集を継続する。

(次年度使用額が生じた理由と使用計画)

(理由)

OAジャーナルへの論文投稿料金として計上したが、原稿の受理に至らず改訂作業中のため。

(使用計画)

速やかに原稿の改訂を進め、査読付き学術論文としての公表を目指す。

(課題番号 : 16K21005)

(注) ・印刷に当たっては、A 4 判 (縦長) ・両面印刷すること。

13. 研究発表（平成 28 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（0）件／うち査読付論文 計（0）件／うち国際共著 計（0）件／うちオープンアクセス 計（0）件

著 者 名		論 文 標 題				
雑 誌 名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著	
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）						
オープンアクセス						

〔学会発表〕 計（2）件／うち招待講演 計（0）件／うち国際学会 計（0）件

発 表 者 名		発 表 標 題	
林 亮太		「生物学者から見た博物画」	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所	
生き物文化誌学会	2016年06月26日	星薬科大学（東京都品川区）	

発 表 者 名		発 表 標 題	
林 亮太		「過去の生物多様性情報を引き出す-江戸時代の本草学資料のもつ学術的価値」	
学 会 等 名	発表年月日	発 表 場 所	
第64回 日本生態学会大会	2017年03月15日	早稲田大学（東京都新宿区）	

〔図書〕 計（ 0 ）件

著 者 名	出 版 社		
書 名	発行年	総ページ数	

14. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

〔出願〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

〔取得〕 計（ 0 ）件

産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別
				出願年月日	

15. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計（ 0 ）件

国際研究集会名	開催年月日	開催場所

16. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

（ 1 ）国際共同研究： -

17. 備考

--